

仏法領ぶっばうりょう 第六十一号

発行：真宗大谷派 念信寺
☎ 0930-42-0329
ホームページ nenshinji.org



ぼくらはみんな知っている

本堂廊下のつぶやき

ぼくらはみんな知っている
大きなお山の深い谷間
ぼくらはあのお山の中腹に立っていた

空に浮かぶあの雲が雨になり大地を潤し
大地は 僕らを支え
柔らかくうぶな根っこからは滋養をくれた
風はささやき 枝にじゃれ
ずいぶん長い間 鳥やけものや虫たちと
静かに語り過ごした

それから人がやってきて
山から運ばれ 板にされ
お御堂の廊下になった
沢山の人が僕らをさすって
愛おしんでくれた

おじいちゃん おばあちゃん 子どもたち
お嫁さんや 軍服を着た若者もいた
ときには座り ときに踊り
昼寝をしたり 涼んだり
雨宿りをする人もいた

拭き掃除をていねいにしてくれる人
邪魔者あつかいするように掃除をする人
口をへの字に曲げ
自分に言い聞かせるように
複雑な思いをこめて
掃除をする坊やもいた

だけど僕らに触れた後
なぜだか みんな晴れやかな顔になる



人のつぶやき

ぼくらはみんな知っている
君たちが 百年前
奥の山から来てくれたことを
本堂の廊下になり
長い間 雨や雪に耐えて支えてくれた

ゆがんで反りかえつたり
ひび割れたりもしている
廊下の上の段と下の段では
肌触りがまるつきり違うんだ

素足でいると
季節ごとに感触が違うんだ
水がぬるむ頃になると
足裏の厳しい冷たさが
なんだかむずむずと
くすぐられたような感じなる

法座のときは
ネルの着物をきたおばあちゃんたちが
廊下で手招きして
おこづかいをちり紙にくるんでくれたつけ
ひとの手のぬくもり
廊下の木のぬくもり

そう言えば今は新しくなったけど
本堂から庫裡に降りる階段は
ひとの足にみがかれ
真ん中がすり減っていた

仏様に手を合わせ
ご縁をよるごぶ
あのお同行たちは
何処に行ったのだろう

老人施設見学に行つて来ました！

さる7月15日、念信寺支え合いサポート会主催の第1回老人施設見学を実施しました。訪問先は行橋市の「みやこの苑」です。訪問に先立ち、みやこ町福祉課の元松係長より老人施設について少し説明を受け、6台の車に分乗し出発。参加者はサポート会メンバー（高尾ノリ子・長野桂子・白石長江氏）・住職・坊守を含む24名。

みやこの苑では、スタッフの案内で施設内（デイケア、特別養護、ユニット型特養〔有料老人ホーム〕、グループホーム等）の見学。見学後は、大広間でお茶をいただきながら、施設長をはじめ係員の方から入所に関する説明等を受けました。施設内は清潔に整頓されており、入所者・スタッフともに笑顔が多く、全体的に明るく穏やかな雰囲気でした。



訪問後は念信寺に集い、感想を話し、情報交換をしました。参加者は、さすがに今すぐ入所したいという人はいませんでしたが、「老人施設とはどういうものかという事が大掴みに分かった」「参加して良かった」という感想が多く聞かれました。支え合いサポート会では今後も様々な企画で、少しでも皆さまのお役に立てたらと考えています。要望・ご意見等お聞かせ下さい。

村上 寿子

念信寺にはどんな委員会があるの？



責役・総代会

世話人会

墓園委員会、納骨堂組合

同朋会

支え合いサポート

寺報編集委員会

輪読会



今後の課題は？

世話人さんのいる所とない所、上高屋とそれ以外の地区に別れているの。門徒さんが同じように関わられようとしていくことが、今後の課題ね。

具体的には、まず世話人さんのいない地区の門徒さんにも、お寺の行事に関わってもらいたいこと、お斎などの準備や開法会にも、他地区の門徒さんに参加してもらいたいことですね。

みんなに協力してもらえると、ありがたいね。

ええ、いいね。



お寺でイベント！

「音楽で人と人を、ツナゲル。」

ヴァイオリン演奏者 木村 厚太郎 さん。



ピアニストで、作曲も手がける 川崎 美香 さん。



二人は、上高屋に音楽の楽しさを伝えるためにやってきた。

木村さんは、飾ることなく自分の言葉で語りかけた。「クラシックって聞くと、硬いとか古臭いとイメージがありますが、音楽はそんなもんじゃないんですよ。もっと、楽しいものです。私は、音楽を通して沢山の人々を結びつけたい。音楽で、みんなを仲良くさせたい。」木村さんと川崎さんのサウンドは、会場の人々の心を一瞬にして開かせた。耳馴染みの曲が流れると子どもは笑い、大人は微笑んだ。

演奏曲

- おひまわり
- カクローパー
- 月川の流れるように
- 月アナと雪の女王
- 月ふるさと
- 月情熱大陸
- 月ユーモレスク
- 月夢のあとに など

自分の知っている曲が流れると、不思議と体が動く。なぜだろう？曲には、不思議な力がある。曲と自分の思い出を重ね合わせ、記憶が蘇ってくる。



アンコールは、「情熱大陸」。

軽快なヴァイオリンにのせて、客席の中へ飛び込む木村さん。真横で演奏してくれると、生の音の響きに驚き、笑顔が溢れる。初めてヴァイオリンの音を聞く赤ちゃんも、母親の服を握りしめ、目をまん丸にした。小学生は、真横で演奏を聴いたことがあるのだろうか。興味津々に、木村さんを覗き込む。



二人の若い演奏者は、上高屋に「文化」を残した。音楽と文化を、田舎にいても、都会にいても、どこにいても、文化的でありたい。

これからも、念信寺の事業が文化的であってほしいと心から願う。

大迫 光浩





今回はみやこ町犀川
鑑畑在住の A さん
を紹介いたします。



あらためて紹介する必要はないほど
ではないかと思えます。写真を見ると、
すでにご存じの
方は多いのでは
ないかと思いま
す。

きは度々登場しているし、また生立の
四季犀館創立以来現在まで犀館の役員
を務めているので、旧犀川ではつとに
有名な方だと言つてよいと思えます。
ただし、ご注意したいのは掲載の写
真には氏の永年のトレードマークのア
ゴ髭がない。
理由は、今年五月、白内障手術の際、
看護師に刺られたとのこと。眼とアゴ
は相当に離れているので関係ないじや
ないかと抗議・抵抗したが、結局は治
療をしてもらう身だから従わざるをえ
なかつた。以来ヤギ髭はやめたとのこ
と。

氏は昭和十二年生まれで、現在七十
九歳とのこと。普段は奥さんと二人暮
らし。
今からは収穫の秋を迎え、サトイモ、
椎茸などの収穫、柚子コショウの製造
出荷などますます毎日忙しくなるとの

こと。四季犀館を中心として近隣の市
場に出荷するのに、性格としてゆるゆ
る出かけるのは嫌いだから、早朝誰よ
りも早く出かける、早いときは朝四時
半頃から出かけるとのこと。まだまだ
体力・健康に衰えなしと思える。

鑑畑は標高450メートルで、気温
差が大きいことと、水がきれいでも豊富
なことから鑑畑産の農作物は他地域に
は絶対負けない美味しさがあると自信
をもっている。それと地区の人たちは
皆よく働き、丁寧に作る。これらのこ
とで鑑畑ブランドとして評判を獲得し
ていると思うとのこと。

氏の命名したコショウの辛さを表わ
す「とほうもね!」「そげえね!」など
の商品は表現の面白さもあつてか好評
で、海外にも売れているとのこと。
(阿部正紀)

念信寺のホームページが出来ました nenshinji.org



参拝・拝観・アクセス

まだまだ、完成ではありません。
お寺の全体像が見えるように、工夫しました。
ご覧になって、ご意見をお聞かせください。
メールアドレスは nenshin@pony.ocn.ne.jp

あゆみ……念信寺の歴史
お知らせ……行事予定、報告
寺報のバックナンバー



本庄設置者追悼会

夏季婦人研修浄真寺にて



盆踊り 8月16日

今年も夏休みに、原典から子どもを守る会と
して、福島から4家族を浄真寺に受け入れ



念信寺お盆仏具みがき



京都組門徒会
8月6日

生活のなかの川柳

過日、念信寺の本堂での法要の集まりで住
職がつかやくように

うしろまえ 笑うお前は うらおもて
と言われました。ご記憶の方もおられると思
いますが、私はその場の雰囲気や和んだように感
じました。

川柳は短歌や俳句とよく比較されますが約
三三〇年の歴史ある立派な日本文化である
と言われてます。ユーモア川柳、叙情的川柳、時
事川柳、と三部門があつて人間を対象に詠むと
なつています。難しく考えないで日々の暮らしの
中に取り入れると楽しいと思えます。私の好き
な句を並べてみました。作者は一般人です。

着飾つても しょせんお前は 俺の妻
運動会 抜くなその子は 課長の子
まだ寝てる 帰ってみれば もう寝てる
嫁が捨て 姑拾つて 減らぬゴミ
パソコンは 打てないけれど 釘打てる
順調に 老化してると 医者笑う
わし良縁 妻の判定 腐れ縁
禿げ隠し 帽子飛ばされ 春一番
たまげたと 貧乏神が 出て行つた

皆さん、明るく楽しく過ごしましょう。

(川柳好きのおいさん)

思い出

連れ合いを偲んで

みやこ町岸川横瀬

ST



私の実家は農家ですが、祖母がたいへん信仰にあつくお寺で育った母を嫁に迎えたそうです。小布を接ぎ合わせ縫った袋にアラレや干し柿を入れ、お寺参りする祖母につれられ、おばあちゃん達からよくお参りしたねとほめられ、お菓子など下さるのに祖母の着物の袂にすがって、はにかんだ幼い頃のことになつかしく甦ります。

こういった環境で育ったせいも、私は佛壇のある家を守るといふことに一種の憧れのようなものを抱いておりました。



村にお説教があるといえは人通りの少ないうら道を歩きます。祖母は申しました。「人が働いているのに仕事もせんとお寺に参るのは気がひける」。夜のおつとめも人里離れたひなびた道を提灯の明かりを頼りに、川の瀬音や小鳥の羽ばたきや夜風にそよぐ木々の梢が提灯の明かりにゆれるほかに思わず怖いという私に、いつも祖母の言うことは、「はめばはめ、食らわばくえ、金剛の杖には歯は立つまい！」と、平然とした熱い心にはげまされたものです。

祖母には脳性麻痺で生まれた娘がいました。つまり父の妹です。今にして思えば祖母はその子に行く末を慮り、一途に求めた佛の道ではなかったのかとその親の愛の深さを偲ぶ思いです。

物心のつく頃、私は母に申しました。母は私の運動会や学芸会には必ずその叔母を連れて来ます。髪の毛が薄く見るからに歩く姿も身体障害者特有の格好を友達に見られるのが恥ずかしくて、「もうねえちゃんをこんな所に連れて来なくてよ！」といいました。日頃は穏やかな母が血相を変えて「何を言うかな！このねえちゃん家の宝、福の神ばい。二度とそんなこと言うたら、ききやせん！」

念信寺だより

秋のお彼岸法要のご案内

すっかり涼しくなりました。皆さまいかがお過ごしですか？秋彼岸の法座を左のように開催致しますので、どうぞお参りください。

日時	午後一時半 ～三時半	夜七時半 ～九時
九月二十四日(木)	伊藤先生	伊藤先生
二十五日(金)	伊藤先生	マンドリン
二十六日(土)	住職	ミニコンサート

●日時

伊藤 元 先生(小倉 徳蓮寺前任職)

大谷派で全国区のご活躍をなさっておられます。

●マンドリン 池田昭昭さん

息子さんのギター奏者、慎司さんやお友達と何度も本堂で演奏してくださっています。いつも和やかな気持ちにしてください。



二十五日夜は、マンドリン演奏を終了後、いのちの見送りをテーマに考えます。

世話人会議

九月二十四日午後十二時半より

念信寺お内仏の間にて

このばちあたりが！とこっぴどく怒りとばされた。私が「福の神」という言葉を知ったのはこの時が初めてで、胸にたたき込まれたものです。そんな私がある日の食事の時に叔母の茶碗にご飯を山盛りについて、その上をしゃもじで押さえに押さえてついで渡した一杯のご飯。何故か母の目を気にして！母と叔母の間に立って、何故、私が叔母をかばうのか。純真な子供心に抱いたあの時の感情は、血のつながりのなせるわざなのか。未だにわかりません。

とつおいつ月日は流れ、やがて私は母方の祖母の遠縁に当たる主人の許に嫁いでまいりました。主人は現役時代いつも申しておりました。オレは定年になったら、地球をけずる！つまり土に生きることで。三十数年間働いたサラリーマンも無事に定年を迎え、希望通り近所の友達と営農をしていきましたが、志も半ばに病に倒れ七年間の入院生活になりました。

長いようで短い闘病生活の明け暮れでしたが、その間多くの方々のご恩の上に生かされている私共でございました。もうすっかり顔なじみになった行橋の駅長さんがいらっしやいます。「まだホームは寒いから待合室の方にいなさい。電車が来たから教えてあげる！」とか、発車ギリギリに走り込む私の姿に始発の時間を一寸して下さるローカル線の人情に泣いたり、多くの方々に支えられた年月でもありました。



今、主人の遺影の前に座り、いろいろな思いが甦って参ります。殊の外、ある日の「コマが忘れられませんか。ある日私は「お父さんお酒がのみたいくない？」と聞きますと、主人の顔がほころびました。私の方が嬉しくなりました。早速持つて行ったカップ酒！わずかに入るキャップの蓋の雀の涙ほどの数滴の酒の香に昔を思い出したのか、最高の笑顔になりました。「この事は病院には内緒の内緒！これは主人と私の心の世界！長年連れ添った夫婦の情がうずく！神のみぞ知る！思いつきりどんどん呑ませていたら、どんなにすっくするだろうか。他人からガタガタ言われる筋合いはない！」などと横柄な感情の起伏に振り回されたあの時期も、今では思い出になってしまいました。

今、最愛の連れ合いに逝かれ、一時は肺抜けのような空洞感に陥りましたが、先日お寺の皆作法要にお参りさせていただきました。ご住職の法話の中に佛様の方から私に呼びかけて下さる。過去現在、未来につながる一連のご縁。ただひたすらに佛を信じ、私は一人ではない……。急に肩の荷が下りた様な気になり、ほのほのとした喜びがわき、心が軽くなりました。

先日、主人の命日の日に長女がお父さんの写真の裏に「妻、T」と書いて、「いつまでも愛している」と書き、その横に今日の日付を書いて、

これからの法座予定

二〇一五年

●ご正忌・報恩講

十一月二十～二十四日

講師 未定

二〇一六年

●春彼岸

三月二十七～二十九日

講師 祖父江 圭乃 師

●皆作法要

六月二十四～二十六日

講師 松月 博宣 師

念信寺同朋会

十月七日(水) 午後二時半より

あとがき

体重計の電池が切れて、お盆を挟んでしばらく計らない間、体重が増えてしまったようで、もう計る気がなくなりつつあります。



暑中お見舞い出そうと思つて忙しく、残暑見舞いを出そうと思つていたら急に涼しくなつて、どうしようかと思つていま

